

資料編

1 正蓮寺川公園のあゆみ

(1) 正蓮寺川の成り立ち

<豊臣秀吉の頃>

治水と交通整備を目的とした「文禄堤」を築く

<徳川綱吉の頃>

豊かな水資源を利用し、農業が繁栄

1684年 淀川改修に着手

淀川河口の九条島が水流を妨げ水害が発生していると考え、九条島を開削。曲がりくねった河川を直線的な河流にするため、約3kmに及ぶ新しい川、安治川を開削。

1704年 大和川の付け替え工事

淀川から大和川が切り離され、洪水被害は減少した。

<明治の頃>

淀川流域では大きな被害をもたらす洪水が頻発

1885年（明治18年） 明治大洪水

発達した低気圧が相次いで大阪を襲い、枚方の三矢、伊加賀で堤防が決壊したのを最初に、淀川は洪水によって堤防が次々と決壊。当時の大阪府全体の世帯数の約20%となる約71,000戸が最大13.3尺（約4m）浸水、被災人口は約27万人に及んだ。

1896年（明治29年） 淀川改良工事 新淀川の誕生

明治18年の洪水をきっかけに、河川法が制定され、淀川の洪水対策が本格化。川幅が狭く蛇行しながら、低平地である大阪の街の中心部を流れていた川を、街の中心部から離れた北側の河口付近では中津川を中心を貫くようなかたちで新しい放水路を開削し、川幅を大きく広げて、大雨の時に大量の水を直線的に素早く海に流せるようにした。

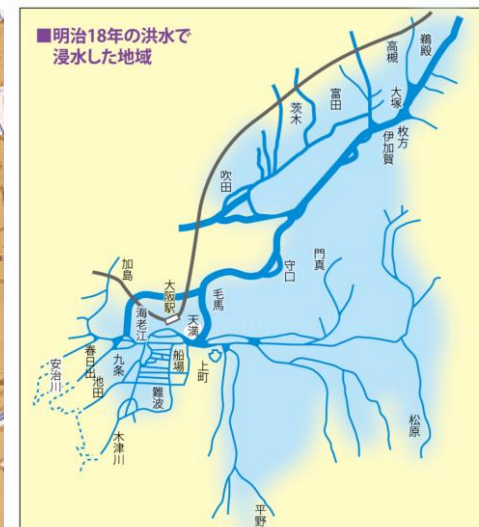
この開削工事によって排出される土砂の運搬を運搬し、放水路より南の地域への干害用水の供給、舟運の便を測るために、中津川の一部を利用して長柄運河（淀川改修工事後の中津川）が作られた。この中津川は正蓮寺川と六軒家川に接続し、河川の浄化や舟運のための維持用水や沿岸工場への工業用水を流下していた。

1898年（明治31年） 西成鉄道株式会社により、大阪－安治川間が開通

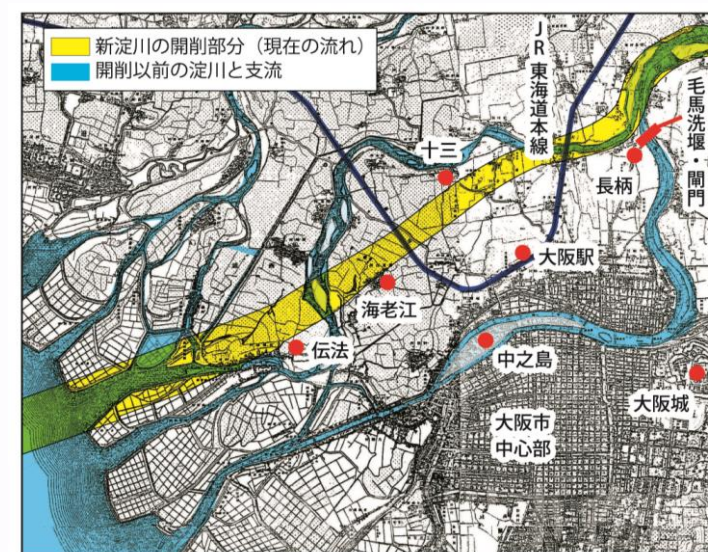
その後、鉄道延長や大阪築港工事も進行する中で大小の工場が続出。



所蔵：国土交通省淀川河川事務所



所蔵：国土交通省淀川河川事務所



淀川改良工事で誕生した新しい淀川

所蔵：国土交通省淀川河川事務所

(2) 正蓮寺川の環境汚染と区民による埋め立て要望

<大正の頃>

下流部では浸水する洪水被害は減少。大阪鉄工所、汽車製造株式会社、住友伸銅所、住友電線製造所、住友製鋼所、春日出発電所の大工場をはじめとする重工業の工場が集積した。

<昭和以降>

昭和初期の戦争の進行に伴い（1935年日中戦争、1940年太平洋戦争）、軍需工場が激増し、大規模化。軍需生産のまちとして隆盛を極めた。

1934年（昭和9年） 室戸台風による高潮被害

春日出、四貫島、西島などの1万5000軒の家屋と、桜島、島屋などの工場が浸水。

1950年（昭和25年） ジェーン台風による高潮被害

此花区のほとんどが1m40cm～3m70cmの深さまで浸水。これにより、正蓮寺川、六軒家川などにコンクリートの丈夫な防潮堤が作られ、浸水対策ポンプ場として北港抽水所、恩貴島抽水所が作られた。

この頃までは淡水と海水が混じり合う正蓮寺川で、子どもたちが泳いだり、フグやサヨリ、フナ、コイなどの魚をとったりできる綺麗な水が流れていた。

1961年（昭和36年） 第2室戸台風による浸水被害

西九条地域の家屋が床上浸水。これを受け地下水組み上げによる地盤沈下に対応するため、防潮施設のかさ上げが昭和39年に完了。

1964年（昭和39年） 地元住民による正蓮寺川・六軒家川の埋め立て要望の陳情

この頃（高度経済成長期）、正蓮寺川は家庭や工場の排水で汚れ、ヘドロがたまり、悪臭がする川となっていた。

【陳情概要】 道路形態の悪化、河川の汚濁、航運の現状、安全性確保、幹線道路の必要性等の理由により、正蓮寺川・六軒屋川を埋め立てほしい。

1967年（昭和42年） 正蓮寺川、六軒家川埋立促進実行委員会より、1万3000人の署名を添えて、昭和39年と同内容で陳情

1967年（昭和42年） 正蓮寺川利水事業

水需要が急激に増えた当時の阪神地区に水道用水や競業用水を確保するため、長柄運河（中津川）を埋め立て、その水を振り替えた。埋め立てた土地には大阪都市計画道路淀川南岸線を建設し、その下に大阪市下水道北部中津川幹線を建設。

下流の水が流れ込まなくなった正蓮寺川、六軒家川は、高見に高見機場（ポンプ場）や箱形の水路を建設し、淀川より取水。下流河川の浄化や環境維持に努める。また高潮対策として、正蓮寺川、六軒家川に水門を設置し、高見機場に内水排除（河川の水を通常とは逆に淀川に排水）の施設を兼用させた。



画像：関西の公共事業・土木遺産探訪WEB

(3) 正蓮寺川公園の都市計画決定へ

1969年（昭和44年） 前2回の陳情の善処を要望

1972年（昭和47年） 建設大臣視察

1975年（昭和50年） 正蓮寺川、六軒家川埋立促進実行委員会より陳情

【陳情概要】 河川利用の減少、河川による地域分断、防災対策、河川の汚濁等の理由により、正蓮寺川、六軒家川の埋め立てを推進してほしい。地元では3つの案（①跡地利用は公園、道路中心②住宅地中心③一部埋立、河岸公園）を検討した結果、川幅をせばめた川岸公園にする案に意見を集約し、要望。

1978年（昭和53年） 地元代議士から建設省に照会。建設省河川局は「河川管理者としては埋め立ての考えはない」と返事を受ける。

同年 正蓮寺川環境整備計画の概要が示される

大阪市会決算特別委員会において、正蓮寺川を埋め立て、湾岸線と梅田地区を結ぶ高速道路の建設の概要が示され、地元の此花区公害問題対策協議会と正蓮寺川、六軒家川埋立促進委員会に同計画が示される。

1982年（昭和57年） 正蓮寺川コレラ汚染事件発生

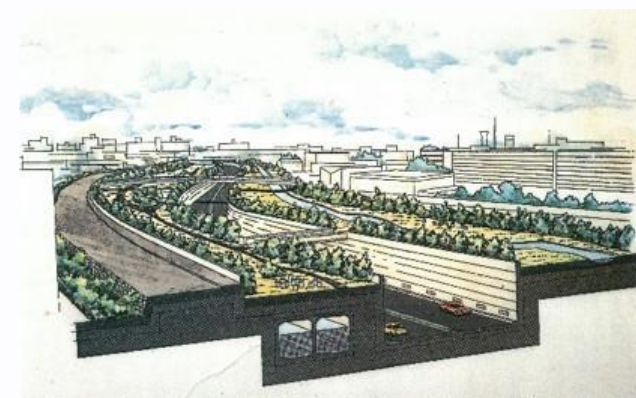
1986年（昭和61年） 高速道路淀川左岸線1期（此花区北港～高見）都市計画決定
開発側は「掘割構造」を提案

1987年（昭和62年） 正蓮寺川公園の都市計画決定
正蓮寺川内の高速道路の両側を公園として決定。

1989年（平成元年） 住民側より高速道路建設にあたって、全面蓋かけを強く要望

2002年（平成14年） 都市計画の変更が決定

排気ガス対策としての小規模脱硝装置の新規開発の実現などがあり、正蓮寺川公園の変更、正蓮寺川歩行者専用道の追加、淀川左岸線の全面ふた掛け（覆蓋方式）への変更が決定した。



■掘割構造イメージ

画像：此花区HP



■覆蓋方式イメージ

画像：此花区HP

(4) 正蓮寺川公園の一部開園

2013年（平成25年） 正蓮寺川公園基本計画図（素案）を策定

公園基本計画平面図【西部】



注：図面は平成30年作成
出典：大阪市建設局資料

公園基本計画平面図【東部】



注：図面は平成30年作成
出典：大阪市建設局資料

2014年（平成26年） ワークショップの開催・住民アンケートの実施

2013年に策定された「正蓮寺川公園基本計画図（素案）」を基に、地域住民を対象としたワークショップ及びアンケートを実施し、意見を聴取。

2017年（平成29年） 正蓮寺川公園の一部開園

正蓮寺川公園第1期工事が完成し、4月1日より千鳥橋東側の一部区間が利用可能となった。4月2日には一部開園に伴う記念式典が開催された。

2021年（令和3年） 大阪市が「大公園の魅力向上に向けた基本方針」を策定

大阪市「大公園の魅力向上に向けた基本方針」

■ 大公園の魅力向上に向けた共通の考え方

- ① 都市の基盤施設・地域の拠点として質の高い公共空間の確保
- ② 公園の新たな使い方・楽しみ方の促進
- ③ 公園の特性に合わせた官民連携による公園マネジメントの導入

正蓮寺川公園のコンセプト

市中心部と臨海部をつなぐ地域のシンボル

※魅力向上に向けた取組みのアイデア例

- ・現在開設されている広場や今後開設予定の広場を活用した魅力向上
- ・みどり空間を活用したアート展示の推進
- ・区民センターなどと連携した取組み など

出典：令和3年6月大阪市建設局 大公園（中之島公園ほか10公園）の魅力向上に向けた基本方針

(5) 正蓮寺川公園の未来に向けて

2021年（令和3年） 正蓮寺川公園アートプロジェクトの検討を開始

2022年（令和4年） 「konohana permanentale 100（仮称）」有識者会議の設置及び開催

正蓮寺川公園アートプロジェクトのプロジェクト名・テーマ・コンセプトづくり等を目的とした有識者会議を設置し、同年8月に第1回目の有識者会議を開催した。第2回目の有識者会議は翌年3月に開催した。

同年 正蓮寺川公園アートプロジェクトに関する各種調査・検討

正蓮寺川公園アートプロジェクトの構想づくり等を進めるにあたって、業務委託した事業者と共に、区民の声を聞く座談会を開催したり、アート関係者にヒアリングにしたりなど、各種調査や検討を実施。

2023年（令和5年） konohana permanentale 100+コアメンバー会議の設置及び開催

「konohana permanentale 100（仮称）」有識者会議、正蓮寺川・六軒家川環境整備推進協議会、地元アート関係者、此花区役所等の各分野からの選出メンバーで構成され、正蓮寺川公園アートプロジェクトの構想づくりや運営体制づくり、その他機運の盛り上げ等を協議することを目的としたコアメンバー会議を設置し、適宜開催された。

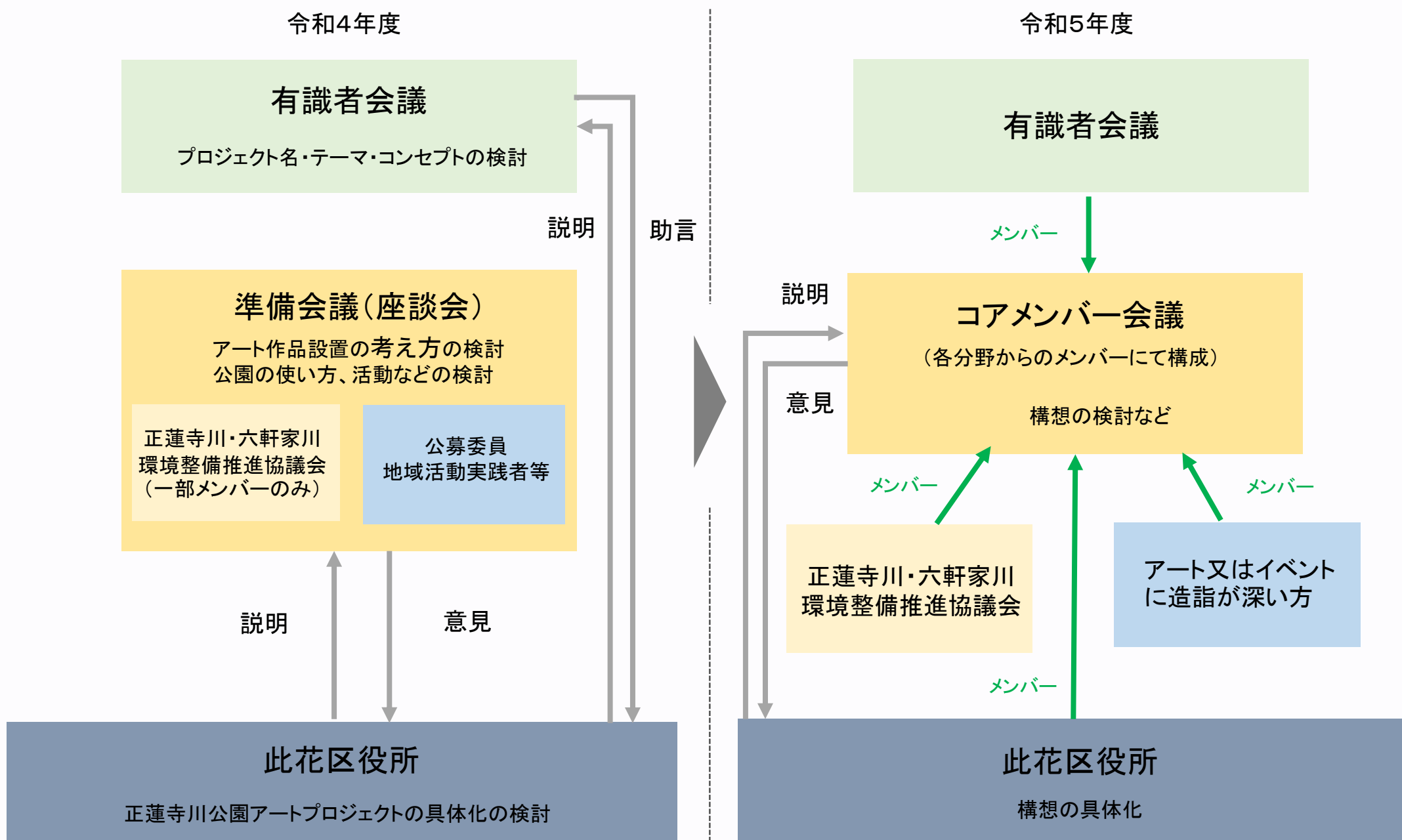
同年 プレとして2作品のパブリックアートの制作を開始

令和6年度からの正蓮寺川公園アートプロジェクトの本格実施に先立ち、令和5年度中にパブリックアートを2作品設置することで、本プロジェクト及び2025年の大阪・関西万博の機運を盛り上げることを目的とする。

2024年（令和6年） 正蓮寺川公園アートプロジェクト構想を策定

同年 2作品のパブリックアートの設置及びお披露目イベントの開催（予定）

参考：令和4年度及び令和5年度 正蓮寺川公園アートプロジェクトの検討体制図



2 正蓮寺川公園アートプロジェクトに対する区民の声（令和5年1月～3月） ※区民へのヒアリング、準備会議（座談会）より

● イベントなど、多様な使い方ができるようにしてほしい

- ・此花区ではダンス・音楽・演劇・芸術など、アート活動が盛んにおこなわれているため、正蓮寺川公園に舞台や電源があり、みんなの発表の場として使える公園にしてほしい。
- ・区民まつりなど区のイベントを実施したい。
- ・音を出せる空間、BBQコーナー、ボール遊びできる場所に。

● 公園の施設を活かしたアート作品の設置

- ・0 km・1 km地点などにアート作品（SDGsで色を分けるなど）が設置されたウォーキングスポット。
- ・壁（パラペット）で囲まれているのが良い。パラペットを活かして壁画アートやボルダリングができるなど。

● 公園の機能をアートで整備

- ・日よけが少ない。アートの庇や東屋があると良い。
- ・見るものではなく、遊べるものでも良い。

● 人と人のつながりがある場所に

- ・「会いに行きたくなる人が正蓮寺川公園にいる」という状況を作りたい。
- ・日替わりで寺子屋のような体験があったり、イベントができるような茶屋のようなものを作るのはどうか。

● 多くの区民の愛着の醸成やアートに触れる場を

- ・ただ置いてあるだけのものにならないようにしたい。
- ・若い人達が芸術に触れたり作れたりする機会が必要。
- ・五感を使って楽しめるアート。
- ・子どもの頃からアートに触れ、「目が肥え、耳が肥える」ような体験をしてほしい。
- ・固定された芸術作品だけでなく、時代とともに発展成長していくような作品に。
- ・一部の関わった人だけではなく、多くの人々が愛着がわくものに。

3 此花区のアートの土壌

(1) このはなアートプロジェクト（2007～2010）

此花区役所が、既存の公共空間および公共施設等にアートを充実させることで、それらを活性化するとともに、区民や此花区を訪れる人の憩いの場を創出することを目的として実施。

「花」「エコ（環境）」「つながり」をコンセプトに、区民参加型で区内の公共施設等を中心に 8 つのアート（壁画）を制作。コミュニティアートをテーマに、アートワークショップで多数の区民関わった。



(2) 此花アーツファーム、見つけ！このはな（2007～2017）

高齢化が進み、空き家の目立つ大阪市此花区の梅香・四貫島エリアを舞台に、まちづくりコンサルタント会社が地元の不動産会社と協働して、街の再活性化プロジェクトを展開。「夢を持った若者を応援する街 梅香・四貫島」というテーマを掲げて、アーティストやデザイナーなど創造的な活動を志している若者が集まる仕掛けづくりと、それらの活動が地域で連鎖し、街の魅力へと繋がり広がっていくよう環境づくりに取り組んだ。

若い大学生やアーティストのお試し暮らしや街を舞台にしたアートイベント「このはな咲かせましょう」等の企画を実施。2009年から名称変更して実施された「見つけ！このはな」は、関西のアーティストに呼びかけ、街中の空き物件や空き地に作品を展示。2017年まで地域と協働する形で活動が展開された。

これらの活動で、街での活動や滞在を通じて、若いアーティストを中心に、梅香・四貫島エリアにアトリエやオフィス、住居を構えるようになった。



出典：特定非営利活動法人プラス・アーツ

(3) 此花区芸術文化青少年育成事業（2017～2019）

作品の制作ワークショップを実施するなかでは、作品の制作から成果発表までを実践する機会を提供し、作成することの面白さや創造性の発揮を体験させると同時に、参加者の間のコミュニケーション、交流を促しながら、将来の此花区の芸術文化を支える人材の育成や参加者のキャリア形成のきっかけにつなげることを目的に実施。アーティスト等の指導のもと、此花区内在学の中学校・高等学校等の生徒とともに、映像制作、造形デザイン、区役所庁舎における壁画アートの制作を行った。



(4) 正蓮寺川公園ペーパーハンド壁画（2020）

正蓮寺川公園を国内外に広く発信するとともに、区民の皆さんのつながりが深まることを期待して、想いや自己の目標などを書き込んだペーパーハンドを使い「最も長いペーパーハンドチェーン」に挑戦。2019年3月に10,161枚の世界記録を達成した。その記録の証として、正蓮寺川公園にアート作品が設置された。



4 アート作品の設置やイベントによる賑わい創出事例（調査した中から一部を抜粋）

名称	概要	経済効果等
佐久島アート	愛知県西尾市に所在し、三河湾に浮かぶ人口約200人の佐久島にて実施している、約20年間継続中のパブリックアート設置事業	SNS上でも人気となっており、佐久島への訪問者数について、年間5万人から10万人へ倍増
瀬戸内国際芸術祭	3年に1度のペースで開催されている、瀬戸内海に浮かぶ島々を舞台とした現代美術の国際美術祭	総来場者数723,316人 （2022年／会期3ヶ月間） 香川県内への経済波及効果が103億円 （2022年開催にかかる試算）
シュメイナスの壁画アート	カナダのビクトリアから約80キロほど北にある小さな町「シュメイナス」にて、1980年代から街中に壁画を描いていった取り組み	衰退した町の活性化を目的として始まり、一時は年間40万人もの観光客が訪れた
イカキング	2021年3月末に石川県能登町の「イカの駅つくモール」に設置された全長13m・高さ4mのイカの巨大オブジェ	経済効果約6億円 宣伝効果は約18億円

5 市民組織の全体像イメージ

